

令和3年度 小松市立安宅中学校 学校評価2

	目標・具体的取組	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>&lt;安心・安全な学校・学級を築き、生徒の主体性を育む。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会、教育相談部会を毎週開催して情報交換し、生徒に前向きな声掛けや仕掛けをタイムリーに行う。</li> <li>当たり前前の行動をしっかり見取り、褒める認める言葉をかける。</li> <li>他者を傷つける行為や言動には、毅然とした対応をする。</li> <li>学校行事・生徒会活動を活性化させ、生徒主体となって活動できる場を増やし、自己有用感の向上を図る。</li> <li>生徒アンケートを行い、「学校が楽しい」という問いに対し「楽しい」と答える生徒が90%を超えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会、相談部会を週1回実施し、情報共有をしっかりと行うことができた。また、部会の中で指導支援体制を協議するなど組織的に対応できた。</li> <li>頑張り度チェックなど、生徒の言葉を活かして規範意識の向上への啓発ができた。SOSアンケートを月1回実施することで、生徒の心の変化が早期に分かり、面談等につなげることができた。</li> <li>ストック運動で生徒から生徒への「思いやり」の啓発を行うことで、他者を大切にすることを育むよう指導している。</li> </ul>	
特別支援教育	<p>&lt;適切な支援に向けて工夫を行う&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、より適切な支援に向けて個に応じた支援計画を作成し、全教職員で共有する。</li> <li>小学校と連携を密にし生徒理解や支援のスムーズな引継ぎを行う。（3～5月、その他必要に応じて）</li> <li>特別支援教育支援員による支援計画を作成し、計画に即して支援ができるようにする。</li> <li>生徒の理解や支援について、必要に応じて教育支援委員会を開き、専門相談員の先生との協議なども含め、より良い支援に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の校内支援委員会で、支援が必要な生徒（個別の支援計画、支援シートを作成する対象生徒）の確認を行った。プロフィールシートの提出、支援計画や支援シートを担当を中心として作成している。</li> <li>小中連絡会では、小学校の関係の先生方（管理職、担任）から、小学校で行ってきたこと（落ち着いた関係づくりとその維持など）や課題についての引継ぎを行った。またその後も必要に応じて関係の先生方から話を聞いている。</li> <li>特別支援教育支援員の計画を毎週状況に応じて作成している。</li> <li>必要に応じて専門相談員を要請し、授業や活動の様子を見て頂き、適切な支援についての助言を頂いている。数人の生徒については検査を行い、結果に基づいた生徒理解及び適切な支援について協議を行っている。</li> </ul>	
道徳教育	<p>&lt;道徳教育の向上を図り、多面的・多角的な価値観を涵養する。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の校内研修会を複数回開催し、資料分析や発問、言語活動の工夫等、「考え・語り合う道徳」の活性化に向けた授業改善を行う。</li> <li>普段の学校生活の中で、良い姿をほめたりするなど、意識的な声掛けを行うことで生徒の道徳性を養う。</li> <li>道徳ノートや授業の様子など生徒の学びを蓄積し、評価に活用することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。</li> <li>道徳の時間に生き方を考える生徒が85%以上になることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の校内研修として、講師を招聘し、研究授業の指導案検討会や授業整理会を重ねることで「考え・語り合う道徳」授業の活性化を進めている。</li> <li>教師が、普段の生活の中での良い姿を褒めることを意識すると共に、生徒会を中心に、生徒同士で思いやりを感じた場面をストックしていく「ストック運動」を行っている。</li> <li>道徳ノートは授業者が点検し、コメントを書いて返却している。また、生徒の学びの様子については、授業者やT2が見取り、成長の様子の共有につなげている。</li> <li>道徳アンケートでは、様々な項目で自分の生き方について考えていると答えた生徒は87%であった。</li> </ul>	
情報モラル教育	<p>&lt;情報モラル教育を推進し、情報手段を適切に活用できる能力を育成する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心として、本校の現状を踏まえた情報モラルの意識向上に向けた取組（安中ネチケットの再考や呼びかけ・啓発など）を行う。</li> <li>技術・家庭科の授業などにおいて、継続的に情報モラルについて考える機会を設け、意識を高める。</li> <li>生徒アンケートを元に評価し、SNSとの向き合い方やネットトラブルに対する意識についての項目において、意識している生徒が90%以上になることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月にアンケートにて実態調査を行い、その結果を踏まえて安中サミット等を通じてSNSの利用について啓発を行う予定である。</li> </ul>	
保健健康教育	<p>&lt;心身の健康&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの健康・安全・食に関心を持ち、快活な学校生活を送ることが出来る。「生活リズムチェック週間」を企画し、実施する。</li> <li>「早寝早起き朝ごはん」に心がけている生徒が80%以上になることを目指す。</li> </ul>	<p>5月24日～6月4日に生活リズムチェック週間を実施した。今回から土日を含めた12日間に期間を延長した。1週目を振り返り、目標を立て直して2週目に取り組むことで、日を追うごとに生活リズムを整えることができた生徒が増えた。しかし、生徒アンケートの結果では、生活リズムチェックの結果などから、自分の生活習慣の課題を理解している生徒は84%（前年比全学年-3%、2年生-12%）、「早寝早起き朝ごはん」を心がけている生徒は76%（前年比 全学年-4%、2年生-18%）に留まっている。学校で自分が役立っていると感じている生徒は、全学年で56%（前年比 2年生-15%）と低く、健康行動の根底となる自己有用感や自己肯定感の醸成が必要である。そこで、自己肯定感の醸成につながる内容を取り入れた学校保健委員会を企画し、9月30日に実施する。2学期以降も定期的に生活リズムチェック週間を企画、実施する。また、機会を捉え、生徒を認めるあたたかな声かけと、生活リズムに関する指導を継続していく。</p>	
家庭・地域との連携	<p>&lt;情報発信を行い、家庭教育の充実を図る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新、安中安心メールの発信、各種たよりの発行を積極的に行っていると感じている保護者を90%以上にする。</li> <li>学校の様子がよくわかると感じている保護者を90%以上にする。</li> <li>学校と家庭、地域が連携し、三位一体で教育を行うことを目指し、学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じる保護者を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期は、ホームページにおいて各種便りを更新したため、保護者アンケートでは92%が肯定的な回答であった。2学期は学校行事も増えるため、トップメニューの更新も行っていく。</li> <li>学校は子どもの生活習慣の課題を明らかにし、家庭と共有しているという項目で、肯定的な回答が74%であった。4月に学年懇談会は開催することができたが、各種PTA行事が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、保護者と交流したり、地域と連携したりすることが少なかった。</li> </ul>	
読書教育	<p>&lt;読書に親しみ、豊かな心を育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10分間の朝読書やブックラリーの時間を心静かに過ごせる環境をつくる。</li> <li>図書委員会活動では、生徒の企画を大切にしながら、委員会活動を活性化させる。</li> <li>1、2年生全員で取り組む小学校への絵本の読み聞かせやビブリオバトル等の活動を通して、読書活動を積極的に推進する。</li> <li>図書の一人当たりの貸出冊数を、1年生と2年生は40冊、3年生は15冊を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書では、一日のスタートを穏やかな気持ちで過ごすために、落ち着いて取り組む環境が作られている。1年生では、読書が苦手な生徒に向けて読み聞かせを始めた。生徒は毎朝の読み聞かせを楽しみにしている。</li> <li>ブックラリーでは、先生が選んだ本を全校生徒で読むことで、生徒同士の会話の話題の一つになっている。今後も続けていく予定である。</li> <li>図書委員会では、生徒がアンケートフォームを作成し、全校生徒の読書に対する意識調査を行った。その結果を分析することで委員会活動を活性化していく。</li> <li>1学期の一人当たりの貸出冊数は、1年生11冊、2年生5冊、3年生7冊と大変少ない状況であった。今後は、図書委員会で貸出冊数を増やす取組を行う、国語科で図書館を利用するなどの取組を考えている。</li> </ul>	
学校関係者評価			